

第6学年 家庭科学習指導案

に組 男子18名 女子18名 計36名

指導者 日高 佳菜

1 題材 生活に役立つ物を作ろうⅡ～家族へのおくり物～

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

この期の子どもたちは、これまでに、目的に応じた縫い方で手縫いをする学習や、手縫いとミシン縫いのよさを生かして古着を加工する学習を通して、製作する楽しさや手作りのよさ、日常生活で活用できる喜びを味わってきている。また、もっといろいろな物を作ってみたい、家族のために役立つ物を作ってあげたいといった願いをもってきている。

そこで、本題材では、自分の家族に生活に役立つ物を作る活動を通して、作品の大きさや形を考えて布を裁ったり布を縫い合わせたりすることができ、一枚の布から作品を製作する手順や方法が分かり、友達と教え合ったり話し合ったりしながら目的に応じた工夫をして、生活に役立つ布製品を作り上げることができることをねらっている。さらに、布を加工することで作品の使い道が無限に広がることから、目的に応じて工夫しながら製作する楽しさを味わうとともに、贈る相手や用途によって見た目のよさやじょうぶさ、使いやすさなどを考えて、家族の生活をよりよくしていこうとする実践的な態度を高めることをねらっている。

これらの学習は、衣服の役割に関心を持ち、衣服を計画的に活用・選択することができ、布を用いて生活を豊かにするために工夫しながら製作することができる中学校の学習へと発展していく。

(2) 指導の基本的な立場

布には、いろいろな形の物を作ることができる、洗うことができる、重みや摩擦に耐えるなどの特徴がある。布製品には、身体や物を覆う、汚れや破損を防ぐ、作業しやすくなるなどの役目があり、日常生活において必要不可欠な物となっている。また、手縫いやミシン縫いのよさを生かして立体的な布製品を作ることは、厚みやゆとりを考慮して目的に応じた採寸の仕方や縫い方の選択の力を高めることができる。さらに、自分の家庭生活や家族に応じて作品を製作することは、自らよりよく工夫できることを見つけて加工したり、作り上げた楽しさを味わったりするとともに、作った物が自分の家族の役に立ち家庭生活上で活用することができるなどのよさがある。

これらのことより、自分の家庭生活に応じて家族のために生活に役立つ布製品を作ることは、製作する意欲を高め、これまでに身に付けた知識や技能、生活を工夫する力を駆使して、自分の生活を豊かにしようとする実践的な態度を育てる上から大切である。

そこで、本題材では、家族の用途に応じた形や大きさに布を裁ったり見通しを持って製作を進めたりすることができるようになることや、自分の家庭生活や家族のために生かされる喜びや楽しさを味わわせたりすることを大切にしていく。そのために、家族の誰が何を必要としているか家庭生活を観察させる。また、試し作りを共同製作で行い、課題を明らかにする活動を取り入れたり、友達の考えと自分の考えとを比較し、自分の生活にどのように生かすか、関係付けて話し合う活動を取り入れたりしながら、互いの工夫のよさに気付かせることを大切にしていく。

具体的には、まず、家庭生活を振り返り、布製品がどのような場面で活用されているかを考えさせ、製作への意欲を高めさせていく。次に、共同製作をし、製作過程における課題を明らかにさせる。そして、相手や使用目的に応じた課題について調べたり話し合ったりして追求し、分かったことを生かして製作させていく。

これらの学習を通して、大きさや形、厚みなどの視点に気付いたり、目的に応じた工夫の仕方が分かるとともに、家族の家庭生活に役立つ物を製作することができた喜びや活用される喜びを実感することで、家庭生活をさらに豊かなものにしようとする実践的な態度を高めることができるようにする。

(3) 児童の実態（質問紙法，複数回答有り）

- | | |
|---|--|
| ① | 布製品のよさ
丈夫12, 洗える5, 加工しやすい5, 柔らかい4, 軽い4, 折りたためる3, 壊れても直せる3, あたためがある3, 分からない2, 再利用できる1 |
| ② | 手作りのよさ
思い17, 好みのデザイン6, 工夫ができる5, 自分らしさ4, 達成感3, 経済的3, 丈夫で長持ち2, うまくできなくても次に生かせる1 |
| ③ | 製作時に気を付けること
安全面22, 分からない4, 大きさ4, 長さ3, ほつれ3, 見た目2, 丈夫2, 使いやすさ1, 布の買い方2, |
| ④ | 本学習をどのように家庭で生かせるか
自分が必要な物が作れる11, 家族に応じた物を自由に作れる10, 将来役に立つ4, 買わなくてすむ3, 贈り物ができる2, 布を再利用できる2, 分からない2, 家事ができる2, |
| ⑤ | これまでの家庭科学習で難しいと感じたこと
○ある19 (裁縫9, 製作計画4, ミシン4, 手縫い2, 調理2, 調味料の量2) ○ない17 |
| ⑥ | 製作の中で必要な知識の気付き
○縫い代18 ○ゆとり14 ○三つ折り2 |
| ⑦ | 学びたい方法
実際にやる17, グループ6, 友達の工夫を知る4, 協力して3, 楽しく2, 教え合う2, 家の経験を生かす2, みんなに伝える2, インタビュー2, メモ2, 先生に聞く1 |

本学級の子どもたちは、①より、布という素材の特性をとらえていることが分かる。一方で、布製品が家庭においてどのように役立っているかという機能的なことには気付いていない。また、②より、手作りのよさには、気付いているが、目的に応じて工夫できるよさには、あまり気付いていないことが分かる。③より、製作時の安全面に対する意識は高いが、工夫する必要性や方法には、あまり気付いていないことが分かる。①②③より、家族の実態に合わせて布を加工した経験や、加工している家族の姿を目にした経験が少ないことが分かる。④より、本題材の学習によって、自ら家庭生活をよりよくすることができるようになると考えていることが分かる。これは、自分の家族に応じて工夫するよさについては気付いているものの、工夫する視点や方法を見出せていないと考えられる。

⑤より、これまでの家庭科学習で衣領域の内容について難しいと感じている子どもが多いことが分かる。よって、本題材では、基礎的・基本的な力の定着を図れるような学習指導を取り入れていく必要がある。⑥より、縫い代やゆとり、三つ折りの必要性にあまり気付いていないことが分かる。よって、自分の製作計画と製作に基づいた布製品との実物とを比較させるような活動を設定していきたい。⑦より、実際に行ってみる方法やグループで学習していきたいと考えていることが分かる。

このようなことから、実際に観察したり、製作したりする活動を大切にしながら、実物や資料活用、自分と友達の考えの比較や製作と自分の家庭生活とを関係付けることのできる活動によって、一人一人が納得できる情報を獲得できるようにしていきたい。また、子どもたちの製作に対する気持ちを大切にしながら、実際に製作する活動を通して、自分の家庭生活をよりよくすることのできる布製品を製作するよさに気付かせるとともに、基本的な知識、技能の定着や生活を工夫する力を身に付けていけるようにしたい。

(4) 指導上の留意点

- ア 生活に役立つ物を製作する具体的なよさに気付かせるために、生活文化として受け継がれている身近な布製品の役割や家族の使用頻度などを調べて生活に役立っていることを実感させる。また、家族のために何を製作すれば生活がよりよくなるかを、家庭生活を見つめ直すことで考えさせ、自分が製作していく物を決定させる。
- イ 基礎的・基本的な力を十分に身に付け、自信をもって自分の作品を製作できるようにするために、作りたい物別グループで1つの作品を製作させ、友達と自分の考えが交流できるようにする。また、その際に、作品を贈る相手や使用目的に応じて、厚みやゆとり、布端の始末など製作上の課題に気付かせるために、情報交換を行い、形、大きさ、縫い方、縫う順序といった観点から、自分の作品と友達の班の作品を比較し、明らかになったことを基に自分の製作計画を立てさせる。
- ウ 追求活動や情報交換での情報を生かしながら、家庭生活に応じた家族への贈り物を作るために、採寸の仕方や縫い方の工夫などについてグループ内及びグループ間で解決したことを自分の製作に関係づけながら、製作計画を見直したり、試したりすることができるように、作りたい物別グループで作った作品や市販の布製品などを比較していつでも用いることができるようにしておく。また、自分の課題を振り返りながら製作したり、作品を活用したりできる嬉しさを味わえるようにする。

3 目 標

- (1) 布を使った物が生活の中で果たす役割や作り方に関心をもち、見た目よく、じょうぶで、使いやすく作るための自分の課題を追求しながら、進んで作ろうとすることができる。
- (2) 作りたい物を構想し、製作手順や時間に見通しをもって丈夫に手際よく作る工夫を見つけ、製作計画を立てることができる。
- (3) 生活に役立つ布製品の種類と役割をつかんで、自分の作りたい物を決め、見通しをもって製作することができる。

4 指導計画（全13時間）

過程	学ぶ喜びや楽しさ	主な学習活動	教師の具体的な働きかけ											
みつめる つかむ 見通す 追求する まとめる・生活化への意欲付け	布製品は、わたしたちの家庭生活の中で様々な役割を果たしている。お母さんが買い物に行くときのエコバッグを作ってあげたい。	1 家庭生活で役立つ布製品について考え、贈りたい相手や作りたい物を決める。① <テーマ> 家族がよろこぶおくり物を作ろう。	○ 家庭生活に即した学習であることを意識させるために、家庭にある布製品の役割について話し合わせるようにする。											
	図書室の先生が喜ぶバッグを作るために好きな色や、持ち運ぶ本について聞いてみよう。	2 学習計画を立て、作りたい物別グループで共同製作計画を立てる。② (各グループへの提示条件例) <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>班</td> <td>バッグ</td> <td>ミトン</td> </tr> <tr> <td>相手</td> <td>図書の□□先生</td> <td>家庭科の△△先生</td> </tr> <tr> <td>用途</td> <td>低学年の学級へ、絵本を持ち運びするため</td> <td>調理実習や授業準備の時に熱い鍋の取っ手をつかむため</td> </tr> </table>	班	バッグ	ミトン	相手	図書の□□先生	家庭科の△△先生	用途	低学年の学級へ、絵本を持ち運びするため	調理実習や授業準備の時に熱い鍋の取っ手をつかむため	○ 相手に応じた工夫をしようとする意識を高めさせるために、自分の家族に応じた作品を作る前に、作りたい物ごとにグループを編制し、グループごとに一つの作品を共同製作させる。その際、贈る相手と用途を条件として教師が指定する。		
	班	バッグ	ミトン											
	相手	図書の□□先生	家庭科の△△先生											
	用途	低学年の学級へ、絵本を持ち運びするため	調理実習や授業準備の時に熱い鍋の取っ手をつかむため											
	本の縦と横の長さと同じ長さの布を準備しよう。	3 作りたい物別グループで共同製作をする。③④⑤ <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>班</td> <td>バッグ</td> <td>ミトン</td> </tr> <tr> <td>考え</td> <td>持ちやすいように持ち手をつけよう。</td> <td>熱を通しにくい厚い布で作ろう。</td> </tr> </table>	班	バッグ	ミトン	考え	持ちやすいように持ち手をつけよう。	熱を通しにくい厚い布で作ろう。	○ 製作後の課題を明らかにするために、贈る相手が喜ぶ工夫を考えて、製作計画を立てさせる。その際、具体的な方法と結果を見た目のよさ、丈夫さ、使いやすさなどの観点で考えさせる。					
	班	バッグ	ミトン											
	考え	持ちやすいように持ち手をつけよう。	熱を通しにくい厚い布で作ろう。											
	本の出し入れがしにくいので、もっと大きめに作った方がいいな。	4 製作した作品の成果や課題についてまとめる。⑥ <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>贈った物</th> <th>成果</th> <th>課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>バッグ</td> <td>入れ口の部分は、布端が見えないように折ってあるから見た目がきれいだね。</td> <td>2冊本を入れると、本の出し入れがしにくいな。</td> </tr> <tr> <td>ミトン</td> <td>布が厚いから、熱い鍋を持って平気だったよ。</td> <td>手を入れるときに、少しきつくて、出し入れがしにくかったなあ。</td> </tr> </tbody> </table>	贈った物	成果	課題	バッグ	入れ口の部分は、布端が見えないように折ってあるから見た目がきれいだね。	2冊本を入れると、本の出し入れがしにくいな。	ミトン	布が厚いから、熱い鍋を持って平気だったよ。	手を入れるときに、少しきつくて、出し入れがしにくかったなあ。	○ 課題に対する解決策を整理するために、製作計画と作品を見た目のよさ、丈夫さ、使いやすさなどの観点で比較しながら話し合い、ワークシートに成果や課題に残ったことなどを書かせる。その際、情報交換では、どのような情報を獲得したいのかを整理させる。		
	贈った物	成果	課題											
	バッグ	入れ口の部分は、布端が見えないように折ってあるから見た目がきれいだね。	2冊本を入れると、本の出し入れがしにくいな。											
	ミトン	布が厚いから、熱い鍋を持って平気だったよ。	手を入れるときに、少しきつくて、出し入れがしにくかったなあ。											
	布の大きさや縫う場所などを考えてみよう。	5 作りたい物別グループ間で情報交換をし、家族が喜ぶ贈り物を作るために、どのようなことに気を付ければいいのか話し合う。⑦（本時） <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>【見た目のよさ】</td> <td>【丈夫さ】</td> <td>【使いやすさ】</td> </tr> <tr> <td>三つ折り・二つ折りの必要性</td> <td>縫代の必要性</td> <td>厚み、ゆとり、まちの必要性</td> </tr> <tr> <td></td> <td>【作りやすさ】</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>型紙の必要性</td> <td></td> </tr> </table>	【見た目のよさ】	【丈夫さ】	【使いやすさ】	三つ折り・二つ折りの必要性	縫代の必要性	厚み、ゆとり、まちの必要性		【作りやすさ】			型紙の必要性	
【見た目のよさ】	【丈夫さ】	【使いやすさ】												
三つ折り・二つ折りの必要性	縫代の必要性	厚み、ゆとり、まちの必要性												
	【作りやすさ】													
	型紙の必要性													
縫う場所は、ほつれずに見た目よく縫えている班を参考に見よう。	使う人や使う目的に応じて、縫い方を変えたり、大きさを変えたりすれがよい。	○ よりよく自分の製作ができるようにするために、課題解決のために得た情報と自分の製作とを関係付ける。												
家族の好みや使う目的に応じて作り方などを工夫してみよう。	6 家族に贈りたい物の製作計画を立てる。⑧ 7 家族に贈りたい物を製作する。⑨⑩⑪⑫ 8 製作した作品を発表し合い、目的に応じて工夫している点やこれから家庭生活中で生かせることについて話し合う。⑬	○ 達成感を得られるようにするために、情報が有効であったか等を振り返らせ、今後の生かし方を話し合わせる。												
出し入れしやすいバッグができたよ。ゆとりを考えると次は、ブックカバーを作ろう。														

5 本 時 (7 / 13)

(1) 目 標

発表し合ったことを自分の作品に生かそうとし、自分の家族に応じた工夫の仕方に気付くことができる。また、布端の始末をする方法や縫い代、ゆとりなどについて分かる。

(2) 本時の展開にあたって

本時の展開にあたっては、目的意識をもって情報交換に臨めるようにするために、自分やグループで解決できることを明らかにさせておく。また新たな課題や改善策に気付かせたり、自分の製作に置き換えたりして考えさせるために、自分と友達のグループの作品や布製品とを、「見た目のよさ」「丈夫さ」「使いやすさ」という観点で、縫う場所や縫い代、布の大きさなどで比較させ、自分の家族や用途に関係付けられるような学習を展開していきたい。

(3) 実 際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ										
みつめる・つかむ・見通す	1 学習課題を設定する。 おくる相手をもっと喜ばせるためには、さらにどのような工夫ができるだろうか。	↑ 5 ↓	○ 課題解決への意欲を高めさせ、情報交換の必要性を実感できるようにするために、製作計画と自分のグループの作品とを「見た目のよさ」「丈夫さ」「使いやすさ」から評価させておく。										
	2 製作グループごとに自分たちの課題から検証を行い、改善策について話し合う。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <small>(バック班)</small> 縫ったところの糸がほつれてバックの横に穴が開いた。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <small>持ち手の</small> 所が重さにたえられえほど丈夫でない。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <small>(ブックカバー班)</small> 本が入れづらい。入れると本が曲がる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <small>布端が</small> 見えていて、布がほつれてきた。 </div> </div> <p>試し作りの作品 ←→ 検証結果</p> <p>・見た目のよさ・丈夫さ・使いやすさ</p> <p>布端の始末、縫い代、大きさなど</p>	↑ 20 ↓	○ 自分たちの実態と目標達成とのずれをとらえさせるために、課題に対して自分たちで解決する必要があることを明らかにさせておく。 ○ 試し作りから得られた課題を明確にもたせ、新たに分かったことを自分の製作に関係付けることができるようにするために、作品を自由に用いた検証を行うことができるようにしておく。 ○ 思考の過程を可視化することができるようにするために、「自分の考え」「他者の考えによる気付き」「根拠」をワークシートに記録させる。										
追求する	3 他のグループと情報を交換し合い、自分の家族への贈り物へ生かせることを明らかにする。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分のグループ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">他のグループ</div> </div> <p>布端の始末、縫い代、大きさなど</p> <p>共通点：大きさに問題がある。 差異点：入れる物、大きさ、構造、縫う順番</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">布の端を縫うのではなく、2cmぐらい横をとって縫えばよさそうだ。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">布端がきれいにするには、布を折って縫えばよさそうだ。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">入れ物より少し大きめに作ればよさそうだ。</div> </div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>課題</th> <th>解決策</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>布端の始末</td> <td>取り出し口を三つ折りにする。</td> </tr> <tr> <td>縫い合わせ</td> <td>中表にする。縫い代を作る。返し縫いをする。</td> </tr> <tr> <td>大きさ</td> <td>ゆとりをもたせて大きさを決める。</td> </tr> <tr> <td>縫う順序</td> <td>ポケットを付けてから縫い合わせる。</td> </tr> </tbody> </table>	課題	解決策	布端の始末	取り出し口を三つ折りにする。	縫い合わせ	中表にする。縫い代を作る。返し縫いをする。	大きさ	ゆとりをもたせて大きさを決める。	縫う順序	ポケットを付けてから縫い合わせる。	↑ 15 ↓	○ 確かな知識・技能の定着を図るために、情報交換の場での説明や理解が十分でない場合は、教師が補足説明や指導を行う。 ○ 新たな課題や改善策に気付かせたり、自分の製作に置き換えたりして考えたりするために、自分と友達のグループの作品を互いに「見た目のよさ」「丈夫さ」「使いやすさ」などの観点から縫う場所や縫い代、入れるものに対する布の大きさなどを比較させて、自分の家族や用途とを関係付けて考えさせる。 ○ 情報交換から見出した縫う場所や縫い代、布の大きさなどと生活に役立っている布製品の製作方法とを関係付けて製作できるようにするために、検証した物や布製品の実物に触れさせながら、ワークシートに生かせそうな視点を書かせ、製作計画を立てさせる。 ○ 得られた情報を、自分が製作する際に具体的に考えさせるために、自分の作品を贈る相手が実際に使用する場面でどのような条件を重視して欲しいと求めているのかを考えさせ、自分の製作場面に置き換えて考えさせるようにする。
	課題	解決策											
布端の始末	取り出し口を三つ折りにする。												
縫い合わせ	中表にする。縫い代を作る。返し縫いをする。												
大きさ	ゆとりをもたせて大きさを決める。												
縫う順序	ポケットを付けてから縫い合わせる。												
まとめる・生活化への意欲付け	4 製作計画の見直しを行う。 自分の家族へ贈る作品の計画 母に贈るバックでは、三つ折りをして、ほつれないようにして見た目をよくしよう。	↓	○ 得られた情報を、自分が製作する際に具体的に考えさせるために、自分の作品を贈る相手が実際に使用する場面でどのような条件を重視して欲しいと求めているのかを考えさせ、自分の製作場面に置き換えて考えさせるようにする。										
	4 学習のまとめをする。 使う人や使う目的に応じて、縫い方を変えたり、大きさを変えたりすれがよい。	↑ 5 ↓	○ 情報交換によって見出した方法が自分の製作において有効であり、学び合いの価値を実感できるようにするために、本時で納得した場面やうれしかった場面やその理由などを問い、賞賛する										
	5 本時の学習を振り返る。	↓											